

## 記

### I 共通事項

- (1) 農業用水の確保のため、関係機関との調整を図り、計画的な配水が行われるよう措置する。
- (2) 熱中症対策として、高温下での長時間作業を避け、水分補給と休憩を取るよう心がける。特に、高齢者は、暑さに気づくことが遅れたり、無理をしやすい傾向があることから、熱中症が発生しやすい高温多湿の日や日中の時間帯に巡回を行うなど、効果的な注意喚起を行う。

### II 野菜

#### (1) 干ばつ対策

- ア 干ばつ傾向にある地域においては、土壌の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。
- イ ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

#### (2) 高温対策

##### ア 全般

- (ア) かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝・夕方に実施する。また、地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、使用時期や施肥等に留意し、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。高温耐性品種の選定に当たっては、立地条件、品種特性、需給動向等を十分に考慮する。
- (イ) 園芸用施設は、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用する。遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める。
- (ウ) こまめな除草や側枝、弱小枝及び下葉を除去し、風通しを良くする。
- (エ) 育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くする。

##### イ 特に葉茎菜類

乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。

##### ウ 特に果菜類

(ア) 不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努める。

- (イ) 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努める。
- (ウ) カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

### Ⅲ 果樹

#### (1) 干ばつ対策

- ア 干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壤水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かんがいを実施する。
- イ 草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、マルチを巻き上げてかん水を行う、かん水チューブによりドリップかんがいを行う等により、地表面への直接かん水に努める。
- ウ なお、かん水に当たっては、かん水設備の漏水・目詰まり等に留意し、適切にかん水が行われるよう事前に点検を行う。
- エ 干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生挙期からの薬剤防除を実施する。

#### (2) 高温対策

- ア 収穫期を迎える果実については、着色不良を防止するため、せん定や反射シートの活用による適切な光環境確保の取組みによって、着色を促す。
- イ 着色が遅延することに伴い収穫時期が遅れ、果実が過熟とならないよう、適期収穫に努める。
- ウ 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光等の対策をとる。

### Ⅳ 花き

#### (1) 干ばつ対策

- ア 干ばつ傾向にある地域の露地栽培の花きについては、土壤の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。さらに、マルチ等により土壌面からの蒸発防止に努める。
- イ ハダニ類、アブラムシ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

#### (2) 高温対策

- ア 切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。また、エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し品質の維持に努める。
- イ 施設栽培の花きについては、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用する。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める。

## V 茶

茶園に敷草を行い土壌水分の蒸発を防ぐとともに、用水が得られるところでは適切なかん水に努める。

なお、改植・新植後間もない幼木園や、台切りや中切り等の剪定を行った茶園においては、少雨の影響を受けやすいと考えられることから、少雨対策は、これらの茶園を優先して行う。